

Abstract

「51 大綱」下の防衛力整備——シーレーン防衛を中心に、1977-1987 年——

吉田 真吾（名古屋商科大学経済学部専任講師）

1976 年に策定された「防衛計画の大綱」（「51 大綱」）の下、日本の防衛力は、70 年代後半から 80 年代にかけて大幅に向上した。本稿の目的は、当時重視されていたシーレーン防衛に関連する防衛力整備の展開を跡づけ、その背後にあった防衛当局の構想を解明することにある。これまでの研究では、86 年の「GNP1%枠」撤廃を含む防衛費増額などの問題をめぐる政府内政治に焦点が当てられ、予算最大化などの防衛庁の組織利益、あるいはナショナリズムなどの政策決定者の信条が、防衛力整備に内在する動機として指摘される傾向が強い。これに対し本稿では、当該期の防衛力整備の実質的内容に焦点を合わせた上で、そこに内包されていた対外的・軍事的・戦略的な構想を浮かび上がらせる。本稿の考察からは、東西軍事バランスが西側にとって悪化する状況であっても米国の日本防衛への関与を確保するという、防衛当局の構想の存在が明らかとなる。

『国際安全保障』第 44 巻第 3 号（2016 年 12 月）35—53 ページ。